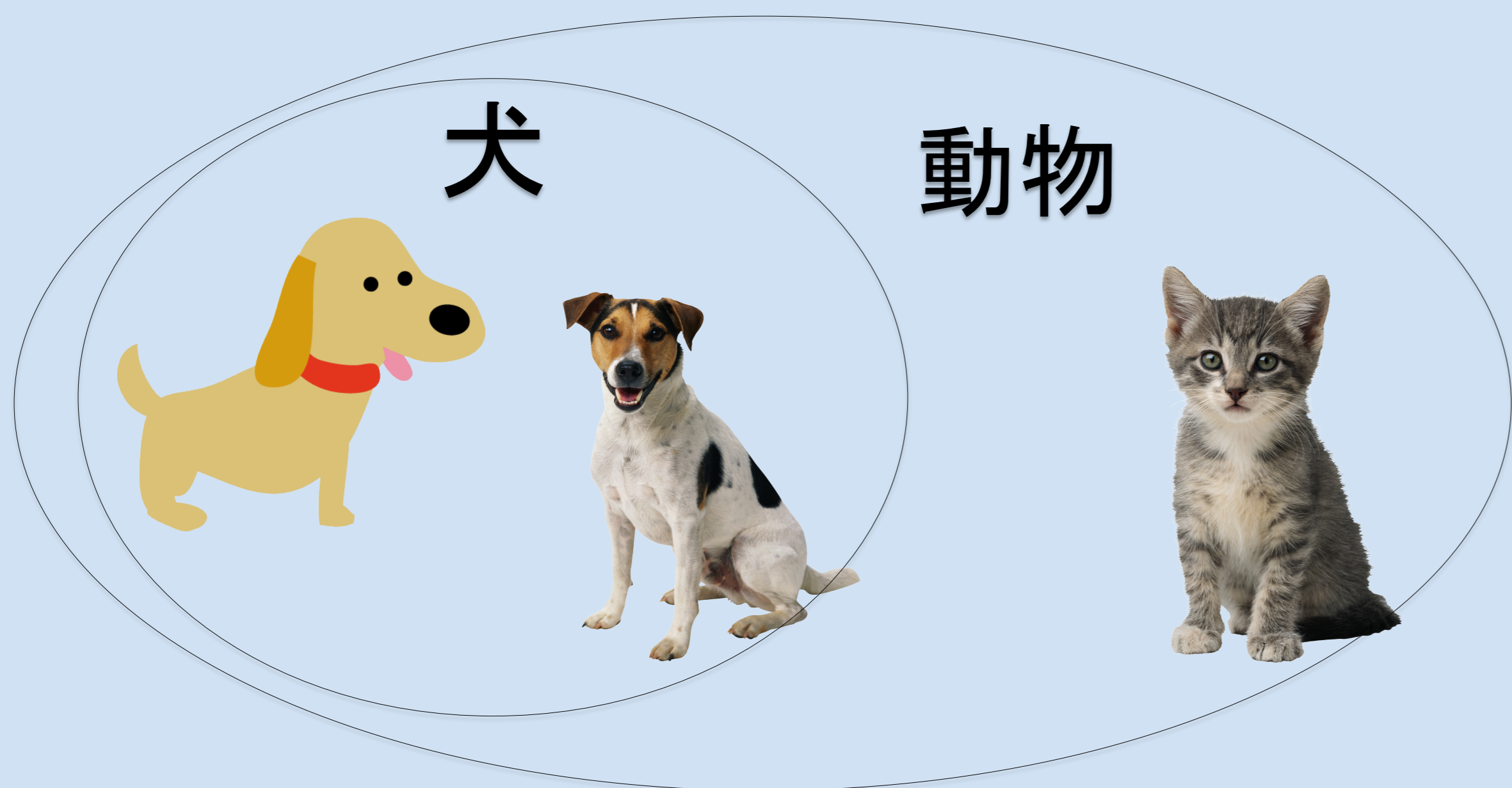


幼児の「同じ」という認識の発達

環境情報学部4年 今井むつみ研究室 牟田傑(71148852)

ことば、カテゴリー、「同じ」の関係



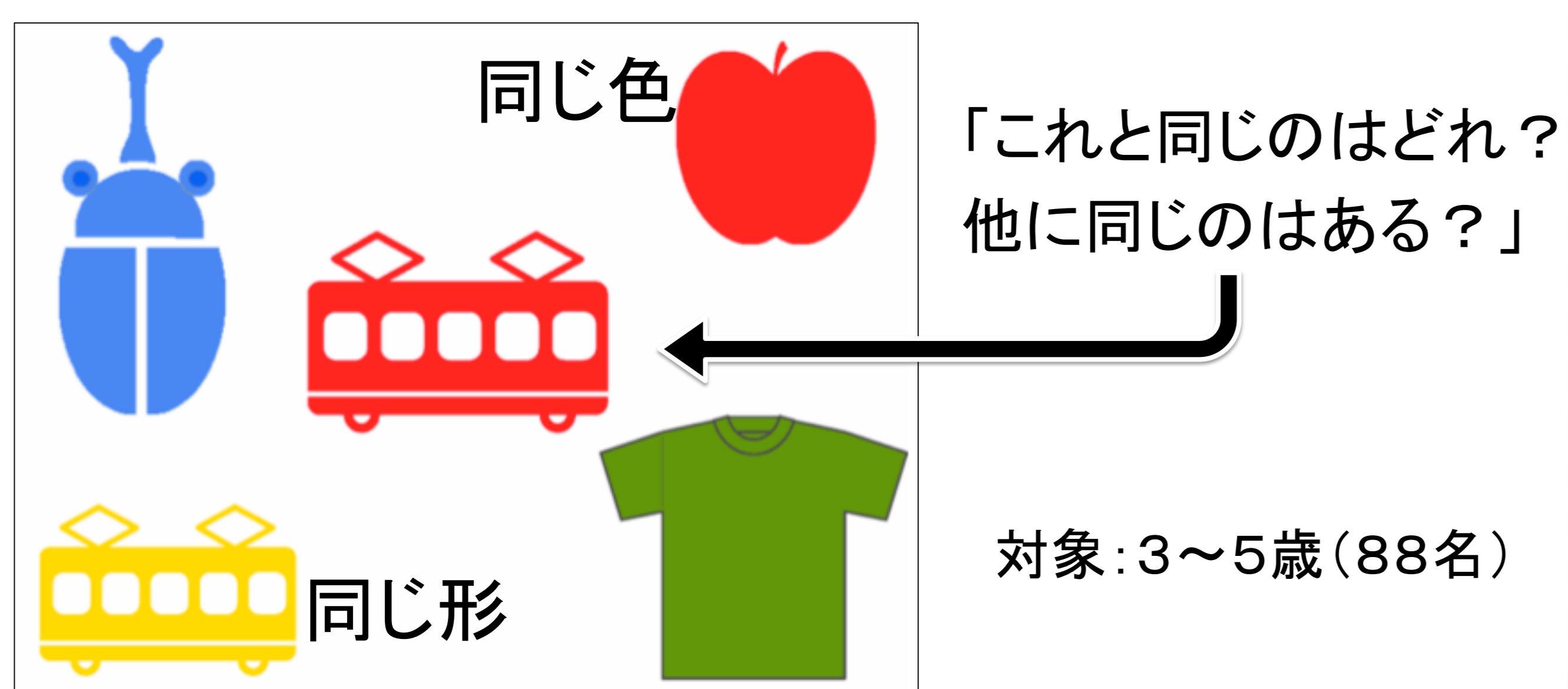
カテゴリーは、**同じ**ものの集まりである。
「犬」「猫」「動物」のようなカテゴリーを、
ヒトは**ことば**によって認識している。

数の概念も..

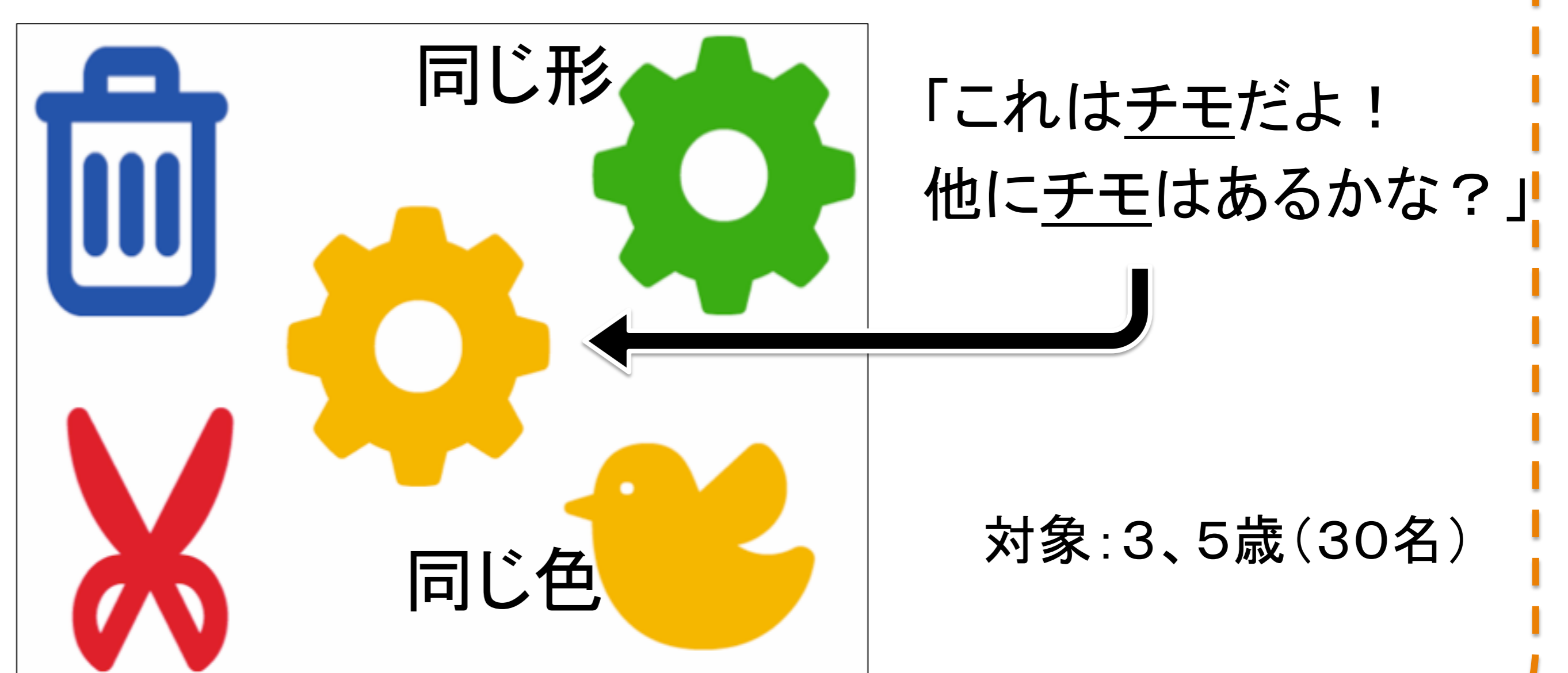


ことばの発達過程で「同じ」の認識は変化するのか？
本研究では「同じ」という言葉／名前を用いた場合の
それぞれの意味の範囲を調査した。

実験1: 「同じ」の範囲を調査



実験2: 名前の範囲を調査



結果1

① 1回目に何を選んだか

	形	色	その他
5歳	96.6%	3.1%	0.3%
4歳	93.2%	6.8%	0.0%
3歳	76.8%	13.6%	9.6%

5歳、4歳 >> 3歳
最初に形を選ぶ(大人と同じ)

② 1回目に形を選んだ被験者の分析

	なし	色	別基準	その他
5歳	36%	38%	22%	1%
4歳	28%	51%	8%	6%
3歳	42%	17%	8%	10%

4歳 >> 3歳
形の次に色を選んだ

5歳は別基準が多い傾向
(別基準: 虫と電車は**速い**)

結果2

「1回目: 形 、2回目: なし」の回答

	実験1	実験2
3歳	41.6%	75.3%
5歳	36.3%	99.3%

実験1と比較した結果:
「同じ」と「チモ」の範囲に差がある。



5歳になると、大人と同じように
同じ形のモノ=同じ名前と
考えるようになる。

結論:

- ① 「同じ」の認識は年齢によって変化する。年齢が上がるにつれ、形以外の基準も「同じ」に加わる。
- ② 「同じ」と「名前(チモ)」の範囲は異なり、5歳になると、大人と同様に名前の示す範囲を理解できる。